

マクロとミクロ経済 自由経済と自由貿易システム

マクロ経済は資本の流通における、固定通貨価値の変動と共に存在する。ミクロ経済は消費における資本の移動を有する。

自由経済システムは、資本の所有を求め、全ての生活需要への企業活動の自由を有する。自由貿易システムは、先端性における世界の統一基準の形成を行う。

これらは資本主義という現実における資本への崇拜を有する。

これらは富の占有を自由に与えるシステムであり、これらは原動力として資本主義は存在する。

これは自由経済システムの崇拜者は、市場と通貨への介入を否定する。これらは富の占有の容認であり、戦争という過去は、資本の所有における競争への転換したのである。

これらは生活需要への企業活動において、経済が異なって定義されるが、資本主義の真実は巨大資本における市場の支配を有するからなのである。

また経済システムは、政治における自由経済のコントロールを可能とするのである。

これら自由経済システムは、新たな競争へ移行しているのである。これは未来という現実の創造を新規技術が有し、資本がそれらへ流入し、絶対的な占有という現実を与えているのである。

これら技術と資本におけるプレゼンスは、絶対性という現実を創造する。これは資本主義が、絶対性と永続という現実を、MBAの進歩と企業が、その自己構築を競争と共に勝利することで、新しい段階と現実への移行を行うのである。

これは競争原理という基盤が、その飛躍的な進歩を有し、他方において、その落伍という現実を創造する。

これは資本主義と自由経済システムが、その変化を現実にも有しているのである。これらは、経済が、自由に既存の固定現実を離脱し、その自己創造を自由市場と自由経済という現実において、自己の創造を行なっているのである。

MBA の進歩は、新しい経済の現実を新たに創造している。

資本力は、新たな技術の創造を永続し、そのプレゼンスは飛躍的に拡大する。これは競争の終焉であるかもしれない。

マクロ経済は、その企業の価値創造と生産において資本の収集を得る。これが通貨価値の上昇を得、国家の経済施策を現実において評価する。

ミクロ経済は、生活需要と企業行動における供給と需要が、資本の流動を得、ミクロ経済を形成する。

これは資本主義と自由経済という現実がルールとして経済活動が存在する。自由経済システムは全ての需要への企業活動と競争における進歩を与える。

これら経済至上主義は、西洋における社会責任という概念を企業の倫理性と社会責任における市場参加を現実として有する。

これらは競争が原動力として経済活動を有する。競争は進歩を有するが、弊害を与えるのである。弊害とは、人間性における倫理的判断でなく、拝金主義が、現実を与えることである。

富の占有は、市場原理における勝者の性質である。その富が市場をコントロールするのである。

また競争原理は、価格の低減と製品と技術の向上を競うのであり、その結果グローバル化における市場の統一は、生活の向上を与えるのである。

これら自由経済システムは、自由主義陣営における人道的正義と共に、世界の趨勢を与える。

経済は必ず、生活需要への製品とサービスの提供において成り立つ。他方においては資本における投資があり、巨大資本はその利益を有する。

これは経済が資本において自己を有することであり、企業における判断でなく、資本の巨大さが経済を決定するのである。

通貨変動は、自国経済と政治への正しい評価を求める。経済は必ず政治という基盤において存在するのである。

資本主義と自由経済は、明らかに新しい段階へ移行しているのである。これらは技術における自己プレゼンスが、飛躍的な進歩を有することにおける経済の変化なのである。

自由経済システムは競争であり、競争は必ず勝者と敗者を与えるのである。競争はその進歩を自己に有する。この競争原理は必ず世界の2分化を有するのである。

これらは自由主義陣営における経済主義という現実なのである。これは先端トレンドの創造を有し、世界を支配するのである。

これは富という基準と判断を現実を与える。倫理的な社会責任は西洋の正義であり、これは経済ルールを形成する。

これらは、植民地主義から富という現実が世界の背後に存在し、経済というコントロールを有するのである。

王は富を占有する。これは現実であり、富は唯一富を創造するのである。